

# アモナイハで でんどうするアルマ

だい22しょう



アルマはニーファイ人のざいあくを見かね、ぜん時間をでんどうについやすけっしんをしました。大さばきつかさにはニーファイハをえらびました。(アルマ4：7、18-19)



アルマはぜんこくを回って、ふくいんをときました。ところが、アモナイハの町の人びとは、アルマのこばに耳をかそうともせず、アルマを町からおい出したのです。(アルマ5：1：8：8-9、11、13)



アルマは、アモナイハのたみがおかしたざいあくのために、なげきかなしみました。しかたなくアルマは、ほかの町へむかいました。(アルマ8：13-14)



するとてんしがあらわれて、アルマをなぐさめました。そして、こう言いました。「もういちどアモナイハにもどって、くいあらためをときなさい。」アルマは、いそいで引きかえしました。(アルマ8：15-16、18)



アルマはおなかがすいていたので、町へ入って行くと、一人の男に、何か食べものをくれませんかと言いました。すると、その人は言いました。「あなたは神のよげんしゃです。てんしがそうつげたのです。」(アルマ8：19-20)



この人はアミュレクといい、アルマを自分の家へつれて行って、食べものを出しました。アルマは、アミュレクの家にしばらくたいざいし、アミュレク一家がしてくれたことを神にかんしゃして、かれらをしゆくふくしました。(アルマ8：21-22, 27)



アルマがアモナイハの人びとを教えるのにめされていることを話すと、アミュレクはアルマとともに出て行って、人びとにくいあらためるようい言いました。二人にはせいれいのたすけがありました。(アルマ8：24-25, 30)



アルマは言いました。「くいあらためないと、神はあなたがたをほろぼされるであろう。また、イエス・キリストが来られ、ご自分をしんじ、くいあらためるものをすくわれるであろう。」(アルマ9：12, 26-27)



アルマがこのように話したところ、人びとはおこって、アルマをろうやに入れようとした。しかし、主がアルマをおまもりになりました。(アルマ9：31-33)



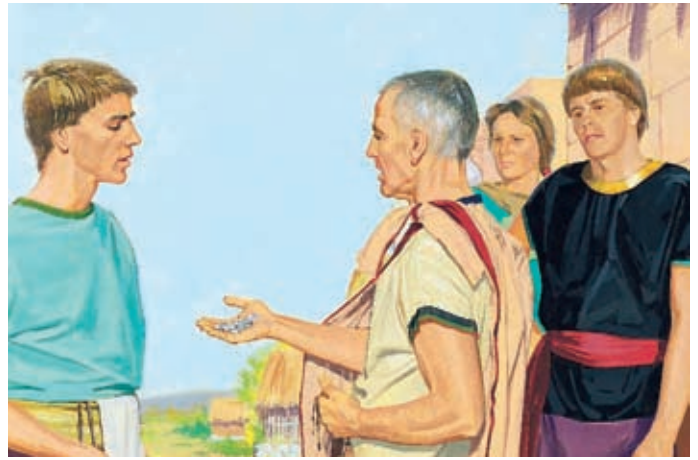
アミュレクも教えをときはじめました。かれは、よそもののアルマとちがって、多くの人に知られていました。そして、自分がてんしのおとすれをうけたことを話しました。(アルマ9：34；10：4, 7)



「アルマは神のよげんしゃである。アルマの話したことはしんじつである。」アミュレクのかしを聞いて、人びとはおどろきました。(アルマ10：9-10, 12)



しかし、ある人びとは、とくに、ゼズロムという名のあくにんが、それを聞いてはらを立てました。アミュレクにしつもんをしてわなにかけようと思いました。アミュレクはそのたくらみを見ぬいていました。(アルマ10：13-17, 31)



ゼズロムはすべてのよいことにはんたいしようとしていました。そうどうをひきおこして、それをかいけつするために人びとからほうしゅうをうけていました。(アルマ11：20-21)



ゼズロムはアミュレクをわなにかけることができませんでした。そこで、ゼズロムは神がないと言ったら、お金をやろうと言います。アミュレクは神が生きておられることを知っていました。ゼズロムもまた、それを知っていたのですが、神よりもお金をあいていました。(アルマ11：22, 24, 27)



アミュレクは、ゼズロムにイエスやぶつかつ、えいえんのいのちについて話しました。それを聞いて、町の人びとはおどろき、ゼズロムもおそろしくなって、ふるえ出しました。(アルマ11：40-46)



自分のたくらみを見やぶられ、アルマとアミュレクが神の力をうけていることが分かったゼズロムは、アルマの教えるふくいんにじっと耳をかたむけました。(アルマ12：1, 7-9)



多くの人びとが、アルマとアミュレクのことばをしんじ、くいあらためて、せいぶんをべんきょうするようになりました。(アルマ14：1)



しかし、ほとんどの人は、アルマとアミュレクをころそうと思いましたが。二人をしばり上げて、大さばきつかさの前へ引っぱり行きました。(アルマ14：2-4)



ゼズロムは、自分のわるい行いや人びとをそそのかしたことにりょうしんがとがめられて、二人のなわをほどいてくれるようにたのみました。(アルマ14：6-7)



しかし、わるい人びとはゼズロムや、アルマとアミュレクが教えたことをしんじた人びとを町からおい出し、石をなげつけたのです。(アルマ14：7)



さらにわるい人びとは、神のことばをしんじる女の人や子どもを火の中になげ入れ、またせいてんもやいてしまいました。(アルマ14：8)



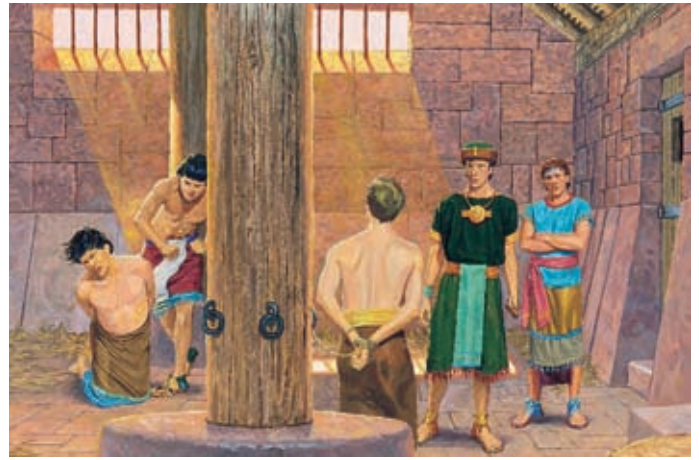
アルマとアミュレクは、そのようすをむりやり見せられたので、アミュレクは神の力をつけて、その人たちをすくい出したいと思いました。(アルマ14：9-10)



ところが、アルマはアミュレクに言いました。「手を出してはなりません。この人たちは神のみもとへ行くのです。あくにんたちはこらしめをうけます。」(アルマ14：11)



大さばきつかさは、アルマとアミュレクの顔を何どもうち、あざけりました。二人が火で焼かれている女の人や子どもたちをたすけなかったからです。そして、二人をろうやに入れさせました。(アルマ14：14-17)



わるい人びとがつぎつぎと、ろうやにやって来ては、二人をのりしました。そのうえ、食べものも水もあたえようとしなかったのです。(アルマ14：18-22)



大さばきつかさは言いました。「おまえたちに神の力があるなら、このなわをほどいてみる。そうしたらしんじてやろう。」そして、また二人をうちました。(アルマ14：24)



アルマとアミュレクは、立ち上がりました。そして、アルマが「わたしたちのキリストをしんじるしんこうにおうじて力をおたえください」と神にいのりました。(アルマ14：25-26)



すると、たちまち二人は神の力にみたまされ、自分たちをしばっていたなわをたち切りました。わるい人びとは、おそれてにげ出しましたが、じめんにたおれてしまいました。(アルマ14：25-27)



じめんがゆれ、ろうやのかべはわるい人びとの上にくずれおちました。主がアルマとアミュレクをおまもりになったのです。二人はぶじでした。(アルマ14：27-28)



アマナイハの人びとはこのできごとを見にやって来ました。アルマとアミュレクがくすれたろうやから出て来たのを見ると、人びとはこわがって、にげて行ってしまいました。(アルマ14：28-29)



主はアルマとアミュレクにシドムの地へ行くようにめいじられました。そこで、二人は正しい人びとに会います。そこにはゼズロムもいて、びょうきになっていました。(アルマ15：1-3)



ゼズロムは、アルマとアミュレクに会ってよろこびました。自分のせいで、二人がころされたと思ったからです。ゼズロムは二人に、自分をいやしてくれるようにたのみました。(アルマ15：4-5)



ゼズロムはイエス・キリストを信じ、もうくいあらためていました。そこでアルマがおいのりすると、ゼズロムはたちまちいやされました。(アルマ15：10-11)



ゼズロムはバプテスマをうけて、ふくいんをひろめはじめました。多くの人びともバプテスマをうけました。(アルマ15：12, 14)



アマナイハにとどまっていたわるい人びとは、アルマがよげんしていたように、レーマン人に一人のこらすほろぼされてしまいました。(アルマ10：23；16：2, 9)